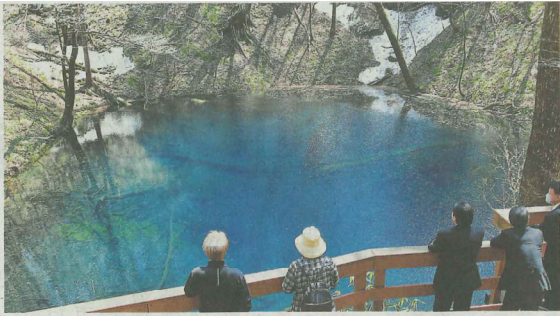


定説は「1704年の大地震で―」

十二湖誕生年 40〜260年古く

白神山地の世界自然遺産エリアに隣接する十二湖(深浦町)は、地滑りで川がせき止められる現象が1440〜1660年(室町前期―江戸前期)ごろに何度も発生し、現在の大小33湖沼が形成された可能性が高いことが、弘前大学などの研究グループによる年代測定で分かった。これまでは1704年(江戸中期)の大地震「宝永岩館地震」による地滑りが原因とされてきたが、科学的調査によって年代が大幅にさかのぼった。(赤田和俊)



深浦町の観光名所・十二湖。「1704年の大地震で誕生した」との定説を覆す調査結果が出た。2022年4月、青池

水没樹木 弘大研究者ら年代測定



郷 青穎 講師

調査したのは弘大農学生命科学部の郷青穎講師(応用地形学)と、山形大や国立研究開発法人防災科学技術研究所など。

3年にわたる調査では、沼の誕生によって立ったまま水没し枯れた樹木などを17カ所で採取。木に含まれる放射性炭素を調べて水没時の年代を測定したところ、宝永岩館地震より約40〜260年前に沼が作られたと考えられるという。

古文書の「弘前藩庁日記」では、1704年に地震(宝永岩館地震)が発生し「小峰川で山崩れが起きて沢が埋まり水が流れなくなつた」などの記述があり、これが十二湖の誕生と一般的に捉えられてきた。

今回の調査では、宝永岩館地震による地滑りが青池付近まで到達したが、川をせき止めていないことも分かったという。調査結果は昨年6月の日本地球惑星科学連合大会でポスター発表(掲示発表)された。

郷講師によると、白神山

地は国内有数の地滑り多発地帯で、地滑りが複雑な地形を作り、魅力的な景観や植生を生み出しているとい



十二湖の年代測定地点

上記の画像は、当該ページに限って”東奥日報”が利用を許諾したものです。無断転載はできません。